「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援メッセージ

会報

ＮＯ．17

2014.7.20発行

編集責任：河地　清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 17 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『ふるさと春日井の自然』

～ビオトープで自然を護る活動～

７月６日（日）市民活動支援センター「ささえ愛センター」において第 17 回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『ふるさと春日井の自然』と設定してフォーラムを行った。久しぶりに「ふるさと春日井の自然」をテーマに 2 本の講演を行った。1 本目は「ふるさと春日井の淡水魚」(希少生物のイタセンパラ)と題して日本淡水魚生態研究所所長の小川茂徳氏に、2 本目は「ビオトープで蛍の飼育活動」と題して春日井ビオトープの会会長の野田淑人氏より研究報告をいただいた。参加者は 46 名。

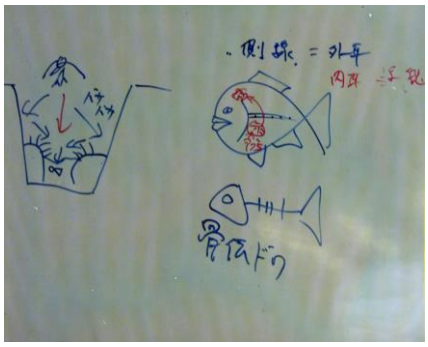
会　場　風　景

第 17 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム　講演録

小川茂徳氏(神屋町)は国の天然記念物・イタセンパラを中心に、中部圏の希少な淡水魚の保護・育成に取り組んでいる。父親(旧尾西市玉野)の造った池の管理を手伝いながら、魚の生態を観察して育った。父親からイタセンパラの保護活動を受け継ぎ、国の認可を受けて個体数を増やす活動を続けている。イタセンパラはコイ科タナゴ亜科の淡水

魚で、淀川水系と木曽川水系、富山県の一部河川(氷見市地方)で生息が確認されており、1974 年に国の天然記念物に指定された。そのため学術研究や教育目的など限られた目的での譲渡しか認められない。また、濃尾平野のある木曽川水系で護岸工事のため母貝のイシガイ(二枚貝)が絶滅し、イタセンパラが絶えたからといって富山県氷見のものを持ってくることはできない。1995 年に国内希少野生動物種に指定され、絶滅危惧種 1A 類になっている。(注、氷見市惣領に「イタセンピラ保護池」を完成、総事業費 4,135 万円。一方で大阪市水道局が 2002 年頃から飼育を始め、水道記念館で育ててきた 900 匹のもらい手が無く危機に瀕している。費用問題や飼育の専門性だけでなく、遺伝的な系統を交雑させない「1 施設 1 系統」が壁となっている。8 千万円の維持管理費が大阪府知事よりムダとされ、記念館は休館中。）イタセンパラの飼育は二枚貝のイシ貝の飼育と一体となっている。貝の肺の中に卵を産み付けるが、その時期が 11 月頃でその時期に貝がいなければ卵を生め付けられない。貝の飼育に精力的に取り組まれている。また、ビオトープの飼育装置の工夫について「湧水型浄化システム」を採用したある幼稚園の詳細図を示された。ある会社の緑豊かなビオトープ、勝川小学校の観察池など数々の取り組みについても紹介された。護岸工事についても専門家ならではの話が聞けた。魚は日光=紫外線に弱いこと、紫外線をシャットアウトするには銀色がよいこと、魚は骨全体で外耳として反応していること、稚魚が住める環境はこのことを考えてする必要があることも聞けた。これらはホタルが生息しやすい環境とも重なる。

講演する小川　茂徳　氏



「淡水魚の生態」の板書

二本目の講演は自宅にビオトープをつくり、ホタルを飼育されている**野田淑人**氏の報告で、24 頁に及ぶレポートを用意された。野田氏は気噴町に住んでおられる。繁田川と新繁田川に挟まれ二本の川は庄内川に注ぐ。155 号線沿いから庄内川まで広い区画である。その庄内川に人慣れたキツネを見たのが 1980 年頃、2m のところで写真を撮ったという。15 年前に庄内川堤防を散歩していてヘイケボタルの飛び交うのを見て感動し、自前でホタル飼育を考えるようになった。自宅の庭の一角に最小限のビオトープをと詳しい方に相談して 1 年かけて計画を立てた。施設整備・環境作りに約 2 年、餌のカワニナ飼育、ホタルの幼虫飼育など試行錯誤約 3 年目でようやくホタルが飛び交うようになったという。トータル約 8 年の成果であった。「ホタルを保護し、生息させるビオトープの条件」を満たす取り組みを行ってきたが、水と温度。水質で苦労し、特に餌のカワニナの獲得に苦労された。苦労してもホタルになる確率は 10~15%だそうだ。天敵のカエルやトカゲ対策、幼虫が入り蛹にな

講演する野田　淑人　氏

る土壌作りが一番難しい。すべての条件を満たすことが難しいが、今年は 1 日に 40 匹ほど飛んだ。手探りチャレンジで、4 年連続でホタルが舞った。産卵・孵化にも成功したと感無量と報告された。自宅のビオトープと自然界が僅かではあるが線で結ばれたことも収穫だったと喜びを語られた。すべての生物の生息環境を保全、復元等をしていくことの認識をより深める実践をしていかなければいけない、ホタルが飛び交うことは環境のバロメーターだと結ばれた。「ふるさとの自然」に目を向けさせた 2 本の報告であった。**(記録：塚田　忠雄)**

「ふるさと春日井」に「ありのまま」の自然をとりもどす
地道な実践活動

春日井の野田さん　ビオトープ整備7年目

自宅に自然、飛び交うホタル

春日井市気噴町の野田淑人さん(七四)が、生き物や植物が息づくように自宅の庭に整備した水辺のビオトープで、今年もホタルが舞っている。飼育したホタルが三年前から、小さな淡い光を放つようになり、近所の人が訪れている。（佐久間博康）

ビオトープは縦三・六メートル、横六メートル、深さ〇・六～〇・八メートルのコンクリートの水槽。ハスやセリ、スギナなどが植えられ、コイや金魚、メダカなど二十種類の魚が泳いでいる。

野田さん右が自宅の庭に造ったビオトープ

ここ二十年ほどで地元から自然が失われ、幼い時に見ていたホタルが見られなくなったのを残念に思い、二〇〇八年からビオトープを整備。環境が整った一〇年、知人から譲り受けたホタルの幼虫四十匹を飼育し始めた。

「あまりの感動に眠れないほどだった」。一一年に、そのうち十匹が成虫に。その後も順調に育ち、今年も淡い黄緑色の光が飛び交っている。野田さんは「自然環境を守る大切さを広められたら」と話している。

ホタルが見られるのは今月下旬まで。問い合わせは野田さん＝電〇五六八（五一）一七八五＝へ。

ビオトープで舞うホタル＝いずれも春日井市気噴町で

中日新聞　2014年(平成26年)6月12日(木曜日)

〈資料冊子〉の紹介

野田　淑人　著『ホタル』(「春日井ビオトープの会」発行)

気噴町を中心にした自然環境の変化と変遷過程の中でどのようにして「ホタル」を保護し飼育するまでに至ったか。貴重な実践記録です。

「川の汚れは心の汚れ」『「ホタル」は自然環境のバロメーター』だと語野田淑人　氏の「ふるさと春日井」の自然を愛する熱意が伝わってくる労作です。

平成21年7月23日（木曜日）

各地でビオトープ造り

神屋町の小川さん

神屋町の小川茂徳さんは各地でビオトープ造りに携わっています。土木施工管理技師として造園を行う傍ら、絶滅危惧種のイタセンパラなどを長く研究。小学校のPTA会長も務め、子どもたちに自然を体験して学んでほしいというのが願い。この夏は三好町の保育園と勝川小でビオトープを造ります。

勝川小ではまず、子どもたちと一緒に池の魚を捕獲。きれいにしてなるべく自然の力で水が浄化、循環させる仕組みにします。そして子どもたちも協力して水草や植物を植え、在来種のみ戻します。「百周年事業の1つとして、子どもたちが楽しめる施設にできたら」とは小林三洋校長。

ビオトープは水辺の環境を再現するだけでなく、維持管理していくことが必要です。「ビオトープで自然に親しみ、命の厳しさを知ることも大切な経験です。愛着を持って子どもたちがこの環境を守っていってくれるとうれしいです」と小川さんは話しています。

ビオトープ作りをする子どもたち

「ふるさと春日井」の自然学習を実践する小川　茂徳　氏

「イタセンパラ」（濃尾平野）

「イタセンパラ」（富山県氷見地方）

「国内希少野生動物種絶滅危惧種 1A 類に指定されている「イタセンパラ」の研究は、生物多様性の環境保護と地域の多様な自然生物の保護の問題でもある。」「ビオトープで人工的に保護管理維持してゆくことは経費的に困難になって来ている。」と小川　茂徳　氏は嘆く。

OPINION－「ふるさと意識」なくして地域の活性化なし－

「ふるさと意識」とは、先人達が護り維持してきた、歴史や文化そして自然を自らの手で護り、後世に伝え残してゆく地道な実践と活動をすることであることを改めて教えられたフォーラムでありました。

「開発＝発展」という大義名分のもとに高度経済成長時代をピークに日本は目覚ましい発展を遂げました。「経済＝物質」の豊かさを遺憾なく享受できる社会になったことの幸せを否定するつもりなどさらさらありませんが、その反面失ってきたもの、犠牲にしてきたもの、後回しにしてきたものも多々あることに気づき始めて久しいのが今日の社会であることを教えてくれたような気がします。

「ビオトープ」で希少生物の保護をすることのすばらしさと、自然への畏敬の精神には大きな意義を感じました。しかし、「ふるさと」の自然を保護してゆく考え方の原点でもあることを十分理解しつつもなお、釈然としない何かが心に残ってしまったのです。

つまり、人工的に人の力を借りて希少な自然を護ってゆかねばならない今日の状況にです。小川　茂徳　氏の嘆きにあるように、「自然を保護し護って行くには膨大な経費がかかる。」「開発の名の下に多くの自然が壊されてきたが、これにも膨大な経費を使ってきたではないかと愚痴りたくなる。」今となっては「どうしようもないこと」ではあるが、言えることは、「これからは今までの反省の上に立って 100 年先を見つめてよく考えて行動することである」としか言いようがありません。本来自然は、自然の生態系の中で生物にとってよりよい環境を創り出してきたのです。勿論、人間にとってもです。「エコロジー」の考え方です。明治時代「知の巨人」と言われた博物学者「南方熊楠」の「鎮守の森保存運動」が日本における自然保護思想の原点だと言われています。「ふるさと和歌山」の森（田辺市中辺路町　継桜王子社）を保護してゆくことに生涯をかけた熊楠の「ふるさと意識」の発露を見ることができます。そして、この教訓に学びたいと思います。

4/5「ふるさと春日井学」研究フォーラム主催の講演会で、東京大学名誉教授月尾嘉男氏が調査した結果をスライドの中で語られていたことによれば「東北大震災の津波で被災した 82 の神社のうち 68 の神社（82.9%）の鎮守の森と鳥居が瓦礫の中にほぼ無傷で何故残れたか、残ったのか」ということです。月尾氏は敢えて結論を述べられませんでしたが、「吾唯知足」という禅の思想の中に「これからの社会の発想のヒントがあるのではないだろうか」と示唆的な言葉で語っておられました。

本来自然は「ありのまま」の姿が理想です。しかし、そうではなくしてきたのが、他ならぬ人間であるとするならば、もう一度、本来の「ありのまま」の自然を取り戻す努力を今生きている人間がしてゆくことに大きな意義があり、責務のような気がします。

蛍を自らのビオトープで飼育する野田淑人氏は、来年から、地元の繁田川に蛍の幼虫を放流して行きたいと抱負を語られていたことに「ふるさと春日井」の「ありのまま」の自然再生への一筋の光を感じさせる思いでありました。**（文責：河地　清）**

次回 FORUM のお知らせ

第 18 回テーマ『ふるさと春日井・震災の歴史』

日　時：平成２６年 8 月 3 日（日）13:30～15:30

場　所：**市民活動支援センター**『ささえ愛センター』八幡小西　２階第一集会室（TEL0568-56-5451）

フォーラム内容：

①　「濃尾大震災とふるさと春日井の人々」

発表者：近藤　雅英　氏（春日井古文書研究会会長）

第 19 回テーマ　巡検ツアー『神童・道風の学んだ風景』

日　時：平成２６年 8 月 29 日（金）　日帰りバスツアー　　定員：35 名

場　所：　尾張国衙跡・尾張学校院跡・尾張国分寺跡・高田寺を巡る

費　用：5,000 円　昼食含む（レストラン「味寿吉」）

<行程表>予定（詳細は参加希望者に連絡致します。）

バス乗車　JR 中央線　神領駅 9 時 30 分発

↓　　春日井駅 9 時 45 分発

国府宮(尾張大国霊神社、尾張の一の宮)→・・*散策*・・尾張学校院跡（*名鉄本線国府宮駅隣）→尾張国衙祉→大江匡衡・赤染衛門歌碑公園→昼食→尾張国分寺旧跡碑・・*散策*・・尾張国分寺→愛西市藤ケ瀬の西音寺(横井也有菩提寺)　*東海大橋の手前→高田寺(道風ゆかりの寺、伝道風筆の扁額)岐路　着予定 16 時 00 分頃（予定）

〈解説〉道風が 12 歳頃までに学んだかもしれない尾張学校院跡が名鉄本線国府宮駅の西にある。線路沿い、駅から 200m ほどのところに大正五年九月建立の石碑が建つ。礎石などが残っているわけでもない。その数百メートル北西に大江匡衡(952-1012)とその妻赤染衛門の歌碑公園がある。三度尾張国司を務めたという善政を評価された人で、その功績のひとつが「学校院の再興」とある。三宅川・大江川の改修で農業振興にも尽くしたという。学校院跡の西 300m ほどのところに尾張国衙祉の碑がある。この政治の中心地が松下町である。松下公民館(昭和六十一年建設)の脇に控えめに建つ。ここから約 3.5 キロのところに尾張国分寺旧跡碑が建つ。15 回もの発掘調査を経て、平成 24 年 1 月に国史跡の指定を受けた。金堂・講堂・塔・回廊の伽藍の配置確定がほぼできた。植木で有名なこの地だからこそ発掘も可能だった。建物郡のないこの平野から都に続く山の峰々が迫力をもってこの地を包み込んでいる。小野道風がこの地に来ていれば、その向こうにある京の都に思いをはせたに違いないと実感できる。そんな風景を味わい、尾張国の政治と文化の中心地であったことを体感するのが今回の目的だ。道風のさまざまな人物との出会い、先進文化との出会い、京に上る幸運をつかんだのはこの地に違いないと歴史の閃きの中でワクワクして欲しい。

※参加希望者は河地まで連絡下さい。携帯：090-2344-6530　TEL/FAX：0568-82-5973

（住所・名前・連絡手段）　　ﾒｰﾙ：kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報ｻｲﾄ：http://kasugai.genki365.net/

ふるさと春日井学　**検　索**